



まねん

第48号

令和元年
9月1日

ご挨拶

病院長 宮本勝也

5月1日に天皇陛下が即位され、令和の時代が始まりました。首相談話によると、令和とは、春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることのできる、そうした日本でありたいとの願いを込め、決定したそうです。日本では人口減少、高齢化が進みますが、各々が最期まで自分らしく生きられる時代であってほしいと思います。

今年度も3カ月を過ぎ、新たに来られた先生方もや々と当院に慣れ、軌道に乗ったところです。内科には西山先生、國原先生を迎えました。二人ともお若いですが、内視鏡の実力は相当なもので、内視鏡治療を安心してお任せしています。外科の矢野先生はチーム医療、地域医療への造詣が深く、手術以外の分野でも活躍してくれています。また後期研修医の白川先生、平原先生は外科医師としての知識・技術を身に着けるべく、忙しく働いてくれています。また、放射線科の稗田先生は、迅速で正確な画像診断をしてくださり、臨床に非常に貢献していただいています。

さてハード面においては、昨年3月から始まった外来等の改修工事ですが、売店、外来、内視鏡センター、中央処置室と工事が進み、現在最後の外来化学療法室が工

事中です。今年9月には全ての工事が終了する予定ですが、この間、皆様方には大変ご迷惑をおかけいたしました。お陰様で順調に工事は進んでおります。今回の改修の目玉であった内視鏡センターですが、以前より5倍の広さとなり、大腸内視鏡検査を行うための、下剤を内服する前処置室やトイレが多数配置され、快適に準備が出来るようになりました。検査台も3台から4台に増え、待ち時間も短縮できたかと思います。検査後に安静にする部屋や、検査結果を医師から説明を受ける部屋も充実し、患者さんの評判も上々です。

当院は急性期医療に関しては消化器疾患に特化した病院であり、消化器センターを中心に迅速な診断・治療を行うとともに、臓器別の専門性の高い医療を提供しています。消化器疾患のリーディングホスピタルとなるべく、スタッフ一同質の高い医療を追求しますので、引き続きよろしくお願いいたします。



広島記念病院消化器センター開設3周年記念講演会

日 時：2019年5月23日(木)19:00～21:00

会 場：広島記念病院 3階 講義室

プログラム：第一部 消化器センター各部署の説明

第二部 特別講演「消化器癌に対する治療法の進歩と将来展望」

講 師：熊本大学大学院 生命科学研究部 消化器外科学
馬場 秀夫 教授

5月23日、当院講義室において、広島記念病院消化器センター開設3周年記念講演会を開催しました。2016年5月の開設以来、内科・外科の垣根を越えた消化器分野の診療の質向上に努めるとともに、外来部門の改修、内視鏡センターの整備を進めて参りました。本年4月で開設3周年を迎えるにあたり、記念講演会として熊本大学大学院 生命科学研究部消化器外科学教授の馬場秀夫先生より「消化器癌に対する治療法の進歩と将来展望」をテーマに特別講演をいただき、合わせて当院の消化器分野に対する取り組みの紹介を行ないました。

また、講演会の前には今年2月に完成した内視鏡センターの内覧会も行ないました。

講演会・内覧会合わせて、連携医療機関の皆様48名にご参加いただきました。

今後も皆様のご支援をいただきながら、消化器センターの診療を充実させていきたいと存じます。

地域医療従事者研修会

日 時：2019年6月13日(木)18:00～19:00

場 所：広島記念病院 3階 講義室

演 題：『職場のハラスメント～その防止と対策を考える～』

講 師：公益財団法人 21世紀職業財団
客員教授 宇佐美 理世 先生

参加者：29名

6月の地域医療従事者研修会は、宇佐美 理世先生(公益財団法人21世紀職業財団客員教授)をお招きし、「職場のハラスメント～その防止と対策を考える～」をテーマに講演していただきました。

2019年5月に職場でのパワーハラスメント防止を義務づける関連法が成立し、2020年には施行される見込みです。

まず、セクシュアルハラスメントとパワーハラスメントについて、法律や社会背景と併せて説明していただきました。

セクシュアルハラスメントでは、勤務時間外の「宴会」等であっても実質上職務の延長と考えられるものは「職場」に該当するとの話がありました。

パワーハラスメントでは、業務上必要な指示、命令や正当な注意、教育指導等は相手はどう受け止めようとも、パワーハラスメントには該当しないと説明がありました。

最後に、ハラスメントの対応として「事業主の方針の明確化及びその周知・啓発」、「相談に応じ、適切に対応するために必要な体制の整備」、「職場におけるハラスメントに係る事後の迅速かつ適切な対応」が求められ、所属長等の意識が大切であることを教えていただきました。

今後もハラスメントについての理解を深め、より働きやすい職場環境づくりを考えていきたいと思えます。

消化器センターだより(No.8)

消化器センター長 二宮 基樹

ポストヒューマン



昨年末、中国南方科技大の研究者がエイズウイルス感染者の父から子への感染を防ぐために受精卵の遺伝子の一部を作りかえたゲノム編集技術により双子を誕生させたことは世界中で大きな話題となりました。

私たち医師にとっても大変な衝撃のニュースでした。自然にしか産まれることがなかったひとが、人工的に操作を加えられたあとに形を変えて産まれてきたのですから。

倫理的な観点から「越えてはならない一線を越えた」と世界中の科学者から大バッシングを受け、その科学者は解雇されたようですが波紋はあまりにも大きくいまなお続いています。

この技術を応用すれば、国はIT、数学、語学、文学、スポーツなどその国家に必要な人材をいくらかでも創り出すことができるようになります。個人的にも、財力のある親は受験技術を高めるよう遺伝子操作をしたあとに我が子を誕生させることができるかもしれないし、望む競技のプロの運動選手にさせることも叶うかもしれません。受験や国の威信をかけた運動能力の祭典であるオリンピックでさえもフェアな争いにならなくなってしまいます。恐ろしいのは、国家権力を握った独裁者は恐怖感を感じない肉体的に強靱で冷酷無比な集団を創り出し、最強の軍隊を創り出すこともできるかもしれません。

自然破壊はひとの体内でも起ころうとしているのです。そして、すべての形質は遺伝してしまいます。それが繰り返されれば、もはやひとはひとと言えなくなるかもしれません。

恐ろしいことに、この遺伝子操作を加えたあとのひとにどのような変化があわせて起こるかは当然ながら確かめられていません。中国の双子は脳卒中からの回復力や記憶力が高まる可能性が報告されていたとの報道もあります。逆に、改編された遺伝子と同様の変異が先天的にあるひとは、他のひとより寿命が短いとする統計分析の結果が米医学誌ネイチャー・メディシンに報告されました。あの遺伝子操作はひとの健康上、大きなリスクを伴うことが浮かび上がったのです。

ポストヒューマンという言葉があります。私たちホモサピエンスが支配しているこの地球ですが、その支配が終わったあとの世界のことです。

ひとが減びるのは核などの外的要因によるのではなく、ひとの姿をした“新たなひと”により内部から自壊するのだと主張する科学者がいます。SFのような恐ろしい話ですが、今がその第一歩かもしれません。

内閣府の生命倫理専門調査会は、ゲノム編集で遺伝子を改編した受精卵をひとの体内に戻すことを法律で規制すべきという最終報告書をまとめ、これを受けた厚労省は法案作成に入ることになりました。

ホモサピエンスが、それ以上に身体が強靱で脳重量も重かったネアンデルタール人を凌駕して繁栄を築いたのは、言語による共感そして協調性が大きな要因だったと言われています。私たちが持っているそのような豊かな情動の力で「体内自然破壊」を押しとどめ、ポストヒューマンの到来を少しでも遅らせたいたいものです。



当院のMRI装置を更新しました!!

当院では6月より Ingenia 1.5T (Philips社) という装置で稼働開始しています。(右写真)

平成から令和という新しい時代になりましたが、MRIの世界でも**圧縮センシング**という技術が開発され、新しい時代を迎えようとしています。圧縮センシングは2006年に提案された技術です。最近ようやく臨床現場で使用できるようになり、学会発表でもトピックスになりつつあります。

MRI装置の更新を控える医療施設は喉から手が出るほど欲しい技術です。フィリップス社MRI装置で、腹部領域の圧縮センシング技術の導入は当院が広島県内初の施設となります。

圧縮センシングとは、信号のスパース性と呼ばれる性質を利用し、インコヒーレントなサンプリング手法を用いて間引きされた信号から元の信号を復元する手法で…という難しい話はさておき、今回は当院の新しいMRI装置が患者様へどれだけ貢献できるかをご紹介します。



当院のMRI装置が患者様にできること

装置が新しくなったので、画像は以前より綺麗になります…確かにそうです。さらに圧縮センシングという新しい技術があれば、高速撮影が可能になります。それをどう活かすのかがポイントになります。あえて時間をかけて撮影し、より細かく撮影することもできますし、診断に十分な画質を担保しながら検査時間短縮に重点を置くこともできます。

今後は高齢の方が検査を受けられる機会が増えると予想されますから、体力的負担低減のために検査時間をより短くしたいと考えています。ただしそれは単に撮影枚数を減らして短時間にするのではなく、『画像診断ガイドライン』において必要とされる画像を取得することが前提です。もちろん検査目的によっては、より細かく撮影することが求められます。その場合は撮影時間短縮というわけにもいきません。

当院における一般的なMRI検査は、これまで50分程度あるいはそれ以上かかっていました。しかし現在では撮影画像枚数を減らすことなく、さらに画質を上げた状態で30分程度にまで短縮できています。

これまでにMRI検査を受けたことがある方はどのような印象でしたでしょうか。狭い、暗い、音がうるさい、検査時間が長い…いずれかは感じられたことだと思います。当院は以下のように、MRI検査にマイナスなイメージのある方にも寄り添えるよう努めています。

- ・閉所恐怖症というわけではないが、狭い所や暗い所があまり好きではない方
- ・長時間じっとすることが困難な方

上記に該当する方には、音楽や室内の明るさの調整、あるいは投薬するなどして対応させていただきます。撮影中に聴きたい音楽CDがあるようでしたら、ぜひ当日お持ちください。その



音楽をかけながら撮影させていただきますが、検査中は頭の中だけで歌ってください。

今回の装置は開口径が70cmと大きいタイプです。患者様に横になっていただく空間にはこれまでよりもゆとりがあり、不安軽減につながると思われま

す。また、主治医よりMRI検査が必要と言われ、狭い所は苦手だけどその必要性をご自身も感じたために検査を受けたいと言われる方が、ごくまれではありますがいらっしゃいます。そのような方のためにも圧縮センシングを利用し、上腹部領域において短時間で十分な画像情報を得るための息止め撮影方法を準備しています。検査予約時にその旨をお伝えいただければ助かります。また検査前には、金属チェック等のために検査担当技師による問診をさせていただいております。その際にも伝えていただければ、最大限の工夫で対応させていただきますので、安心してください。

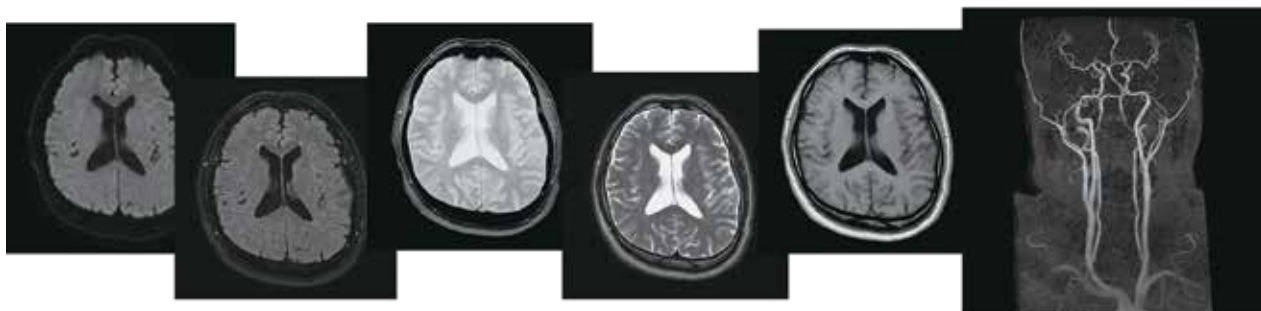
さて、ここからは紙面の関係上2つの検査紹介をさせていただきます。

頭部緊急撮影

脳卒中疑いの患者様には早急な検査実施と画像診断が求められます。当院における頭部MRI救急撮影は約10分で下図(当院職員の画像です)にある撮影が終了します。これまでは25分程度かかっていましたので、非常に有効な撮影プランであると考えています。

頭部 MRI
検査時間 13 分

目的：脳梗塞、脳出血、くも膜下出血（脳動脈瘤）などの確認
撮影画像：DWI、FLAIR、T2FFE、T2WI、T1WI、頭部 MRA、頸部 MRA



MRCP

次に『MRCP』検査を紹介させていただきます。

『MRCP』は膵臓腫瘍や胆石、総胆管結石、胆嚢腫瘍などを主な精査目的としています。対象臓器が小さく、かつ腹部臓器は呼吸によって動くため、これまでは撮影が困難な場合がありました。検討を重ねた結果、現在はより細かく0.8mmの薄さで撮影可能になりました。検査時間は30分程度ですが、造影剤を使用する場合は、注射等のため5～10分程度長くなります。

右図は『MRCP』の撮影方法でブロッコリーを撮影したものです。花蕾もよく見えています。現在はこの撮影プランで検査をしています。

今後も患者様にとって有益となる検査を追及してまいります。それでは、MRI室でお待ちしております。



当院の大腸癌手術について

大腸外科医長、内視鏡外科医長 小林 弘典

当院の大腸外科は、安全で侵襲の少ない治療をこころがけ、大腸癌(特に進行癌)に対してはできるだけ早く手術を含めた治療を開始することを目標としています。

大腸外科の目標

- ①安全で侵襲の少ない優しい治療
- ②癌に対する早期の治療開始

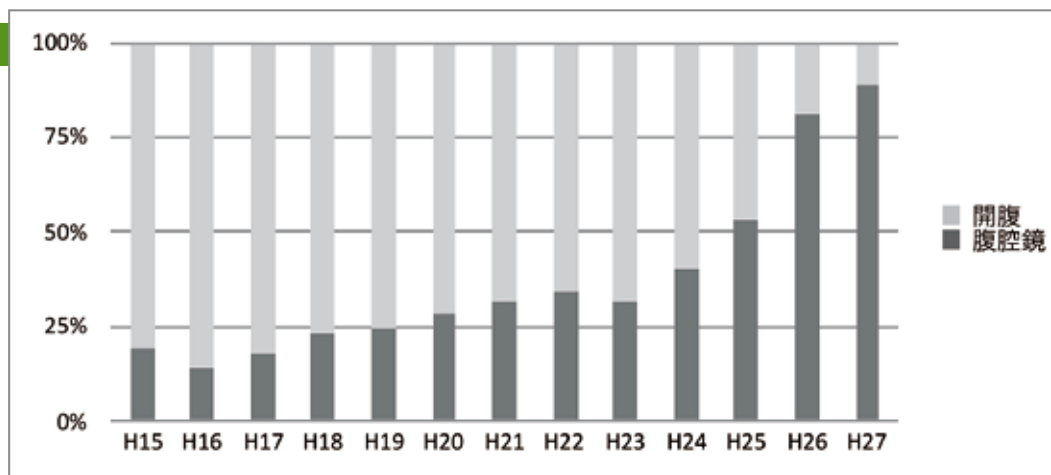


①安全で侵襲の少ない優しい治療

当院は消化器センターを開設し、消化器内科、放射線科、病理診断科と共に定期的にカンファレンスを行いながら治療方針を決めています。そのため、早期癌に対しては手術を行うべきか内視鏡切除が可能かなどを症例ごとに検討し、最善の治療を提供する体制を取っております。また、手術が必要となった場合には安全で低侵襲な手術を目指して腹腔鏡手術を積極的に行っております。大腸癌の腹腔鏡手術は、近年、急速に普及しています。腹腔鏡手術は創が小さく低侵襲であり緻密な手術が可能となるため、術後の回復が早く、イレウスなどの合併症が少なく出血が少ないなどの利点があり、いわゆる術後早期の短期成績に関しては開腹手術より優れています。一方、進行癌に対しては癌の根治性が問題となります。現在、ガイドラインでは、結腸癌に対してはステージによらず腹腔鏡手術が適応となっているものの、直腸癌に対してはステージ0、Iに対してのみ技術的安全性が確認されており、腹腔鏡手術の適応となっています(内視鏡外科診療ガイドライン2014年版)。しかし、腹腔鏡手術は拡大視効果があり開腹手術に比べて深部の詳細な解剖が視認できるため、特に直腸癌ではより詳細で緻密な手術が可能となるため、実臨床においてはかなり適応が広がっており、内視鏡外科学会の2017年のアンケートにおいては適応をステージ0、Iに限っている施設は全体の8%のみで、大多数の施設ではガイドラインより適応を拡大し進行癌に対しても腹腔鏡手術を行っているのが現状です。しかし、腹腔鏡手術の適応を拡大することによって開腹手術と比べて癌の根治性、安全性が損なわれるようなことがあってはなりません。当院では大腸癌に対する腹腔鏡手術は低侵襲性、安全性を保ちつつ根治性も開腹手術と同等の成績を目指して宮本勝也現院長が1998年から導入し施行してきました。導入当初は早期癌など進行度の低い症例を適応としていましたが、2013年3月までの腹腔鏡下大腸癌症例464例について検討し、その治療成績から短期成績、長期成績共に安全に施行されていることを確認したため、2013年4月から進行癌に対しても適応を拡大して腹腔鏡手術を行っています。現在の適応に関しては、結腸癌だけでなく直腸癌に対しても、基本的には他臓器浸潤症例および大腸癌イレウス症例を除外基準としています。しかし、他臓器浸潤症例に関しては腹腔鏡下手術にて浸潤臓器の合併切除が根治性を損なわず安全に施行可能

と判断した場合には腹腔鏡下手術を行う場合があります。またイレウス症例に関しては人工肛門を回避するため消化管ステント留置を行い減圧可能であれば通常通りの腹腔鏡下手術を行っております。そのため腹腔鏡手術の割合は年々徐々に増加しており(図1)、現在は90%以上となっています。

図1



②癌に対する早期の治療開始

大腸癌、特に進行癌においては手術を待っている間に癌が進行する可能性があるため、当院ではできるだけ早く手術を行うことを目標としております。当院の特徴は消化器に特化した病院であるため、消化器疾患に対して非常に迅速な検査、手術が可能です。内科での検査も迅速であり、また検査後に診断がついてから外科への紹介、外科に受診してから手術までの期間も、いずれも非常に迅速です。実際、大腸進行癌に関しては内科に受診してから診断がつくまでが平均4日、外科への受診までが1日、外科の受診から手術までが9日という結果でした(2018年5月から2019年の4月の大腸癌162例のうち緊急手術などを除いた定期手術での解析)。当院では初めて受診してから癌が切除されるまでの期間が約2週間と非常に迅速に癌の手術を行っております。

当院の大腸癌治療についてご紹介させて頂きました。引き続き、より安全で優しい治療が提供できるよう日々、研鑽を積んで参ります。



広島記念病院「理念」及び「基本方針」

理 念

患者の皆様が安心して受信できるやすらぎの環境と、満足や信頼の得られる最良の医療サービスを提供すること。

基本方針

1. 安全で良質な医療を安定的かつ恒常的に提供します。
2. 地域における機能分担と連携の確保を図りながら地域医療に貢献します。
3. 情報の共有化と効率化を目指し医療のIT化を促進します。

地域医療連携室

TEL 082(503)0730

FAX 082(503)1010

代表 広島記念病院

TEL 082(292)1271

FAX 082(292)8175

内科・外科

FAX 082(503)0722

婦人科・小児科

FAX 082(503)0723

耳鼻科・皮膚科・泌尿器科

FAX 082(503)1010

記念寿

TEL 082(294)8400

FAX 082(294)8420

合庁(合同庁舎診療所)

TEL 082(221)9411

FAX 082(223)6204

歯科診療所

TEL 082(294)7858

外来診療担当表

2019年9月5日より、下記のとおり診療致します。赤字が変更箇所です。

診療科	受付時間	区分	月	火	水	木	金	土
内科	8:30~11:00	一診	赤木	阿座上	赤木	赤木	城戸	当番医
		二診	江口	西山	城戸	江口	西山	
		三診	国原	山田	国原	阿座上	山田	
総合診療科	8:30~11:00	四診		横崎		石田(亮)		休診
外科	8:30~11:00	一診	宮本	横山	坂下	宮本	坂下	当番医
		二診	橋本	小林	橋本	横山	小林	
		三診	角舎	二宮	矢野	二宮	豊田	
	13:00~14:30		宮本	小林	坂下	宮本	坂下	
肛門外科	8:30~11:00			石田(裕)	石田(裕)		手術	休診
	13:00~14:30		石田(裕)	手術		石田(裕)		
婦人科	8:30~11:00	一診	横田	横田	横田	横田	横田	休診
小児科	8:30~11:00	一般診療	岸	岸	岸	岸	岸	
	13:00~13:30	健診・予防接種	予防接種	予防接種	予約検査	予約検査	予防接種	
	14:30~16:00	一般診療	岸	岸		岸	岸	
耳鼻咽喉科	8:30~11:00	一診	森	森	森	森	森	
	13:00~14:30		森			森	特殊検査	
皮膚科	8:30~11:00		松尾				渡邊	
泌尿器科	9:00~11:00			井上		池田	林	
眼科	8:30~11:00	一診		藤東		藤東	小松	
広島記念診療所 歯科	8:30~11:00		山田	山田	山田	山田	山田	電話番号 294-7858
	13:00~16:00		山田	山田	山田	山田	山田	
ストーマ外来	8:30~11:00			森本	森本	山本(由)	山本(由)	

土曜日は内科一診、外科一診のみ診察しております。

* 歯科を除く各診療科の再診受付は8:00よりおこなっております。

部分(赤字)は女性医師です。

広島記念病院案内図



交通のご案内

JR 広島駅より市内電車宮島行き・己斐行・江波行にて、本川町電停下車、南へ100メートル徒歩1分
 広島バス商工センター行き・祇園大橋行きにて本川町電停下車、南へ100メートル徒歩1分
 広島駅前よりタクシーで約10分

駐車場

立体駐車場62台

身障者専用駐車場3台

詳細は病院ホームページをご覧ください